NIE特集

Newspaper In Education

毎月第2・4火曜日発行

どきどき小学生

大塩小

学校名　東松島市立大塩小学校　　校長　大槻　政雄
所在地　東松島市大塩中沢下5　　児童　228人
電話　0225（82）2220

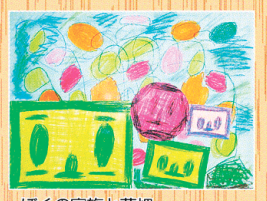
うきうきキャンバス

おすしのせかいりょこう
2年・遊佐和花

かたつむりとおさんぽができたらいいな
3年・平七海

ぼくの友達
6年・片平廉

花のようせいの世界
5年・渡辺千晶


ぼくの家族と花畑
ひまわり学級・遠藤央都

若返りの伝説 息づく

太郎坊清水の謎を追え！

知り隊

「どうしてこんな所に、休憩所があるんだろう…」。わたしたちには、前から気になっていた場所がありました。その場所の名前は「太郎坊清水」。どんな由来のある清水なのか、調べてみることにしました。

太郎坊清水は、大塩小から、県道に沿って南東に三百㍍ほど行ったところにあります。駐車場やベンチがあり、そこで休憩している人をよく見かけます。時には、カメラを抱えて清水の写真を撮っている人を見たこともあります。

実際に、清水の近くへ行ってみると、周りが石段できれいに整備された小さな池がありました。その池の底から泡と一緒にたくさんの水が湧き出しています。その水は、奥にある小さな洞くつにどんどん流れて行っているようです。わたしたちは、どうやって清水を調べたらいいか悩みましたが、地区のことに詳しい大塩市民センターの所長さんを訪ねてみることにしました。

太郎坊清水の看板の前でメモを取る児童たち。右下が、湧き出る清水

今は心と体の休憩所

所長の木村喜宥さんは、「昔、この辺りに『太郎坊』というお坊さんたちの宿があって、その近くにあったことから太郎坊清水という名が付いたという説があるんだよ」と、名前の由来を教えてくれました。清水の近くに昔話の記されている看板が立ち、こんなことが書かれていました。

「昔々、おじいさんが山で木を切っている時に、ぐうぜん清水を見つけ、水を一杯飲み、のどのかわきをうるおした。家に帰ってみると、その姿を見たおばあさんがビックリ。何とおじいさんは青年の姿をしていた。

二人は相談して、明日また一緒に行ってみることにしたが、がまんできなかったおばあさんは、一人で先に行ってしまった。

後から追いかけたおじいさんは、泣いている赤子は見つけたが、おばあさんの姿は見当たらない。でも実は、その赤子こそがおばあさんで、おじいさんを喜ばせようと、水をたくさん飲んでいたのだった。

それからのち、この清水はたくさん飲まず、一杯だけにしようと伝えられたそうな」

◇　◇

太郎坊清水は、残念ながら現在は飲めませんが、今でもみんなの体と心をいやしています。わたしたちは、これからはたくさんの人に、この場所を自慢してここに来てもらいたいと思っています。

文・阿部和也・中西実紅・高橋茉里・佐藤勇亮（6年）

教え隊　校木の高野槇

歴史を見つめて800年

大塩小には、高さ20㍍、幹の周りが3㍍もある高野槇があります。

東松島の学校の歴史と四季の移り変わりを約800年もながめ、「豊かに伸びる大塩っ子」をめざすわたしたちとともに育ってきたのです。夏には涼しい木かげをつくってくれて、冬には風や雪を防いでくれます。

これから、わたしたちが大人になっても、もっともっと大きくなって、大塩小のみんなを見守ってほしいと思います。こんな立派な木があることを誇りに思います。

文・辺見華菜恵、遠藤尚太（6年）

みんなを見守る校木「高野槇」

編集後記

わたしたちが新聞を作ろうと思ったわけは、先生に「やってみない？」と誘われた時、「大塩小のことが新聞にのるんだ」とうれしく思い、この企画に挑戦しました。

新聞を作っていたら、思ったよりも難しくて、文章を考えたりするのが大変でした。新聞を作るにはいろんな人たちの協力が必要なことがこの企画を通して分かりました。「大塩小のことが新聞にのるんの苦労があったけれど、仕上がったときの喜びはとても大きく、ぜひ、たくさんの人に読んでもらいたいと思いました。

〈編集委員〉阿部和也、中西実紅、高橋茉里、佐藤勇亮、辺見華菜恵、遠藤尚太、茂庭弘樹、阿部裕紀、菊池南那、渥美由理香（6年）、三浦ありさ（5年）

題字デザイン　菊池南那、渥美由理香（6年）

〈指導教員〉伊藤義弘、佐賀真由美

■ボランティアに感謝■

大塩小では、毎朝安全ボランティアの人たちが、わたしたちの登校を見守ってくれています。

各地区の通学路に立って、道路を安全に渡らせてくれたり、声をかけてくれたりします。学校まで、登校班と一緒に歩いてきてくれる方もいます。

「おはようございます」とあいさつすると、必ず笑顔であいさつを返してくれて、とてもいい気持ちになります。

晴れの日も雨の日も、暑い日も寒い日も、温かく見守ってくれるボランティアのみなさん。いつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いします。

（6年・茂庭弘樹、阿部裕紀）

言い隊

■小さなエコ 始めよう■

今、地球が大変なことになっている。人間がゴミや有害物質を出しすぎて、地球が汚れている。だから「エコ」を始めてみよう。

例えば、いつもマイバッグでお買い物、プルタブ集めやお風呂の残り湯で洗たく、コーヒーのかすでたばこのにおい消しなど、小さなことの積み重ねで地球は救われる。だから、一人でも多くの人にやってほしい。とっても小さなことでもいいからやってほしい。

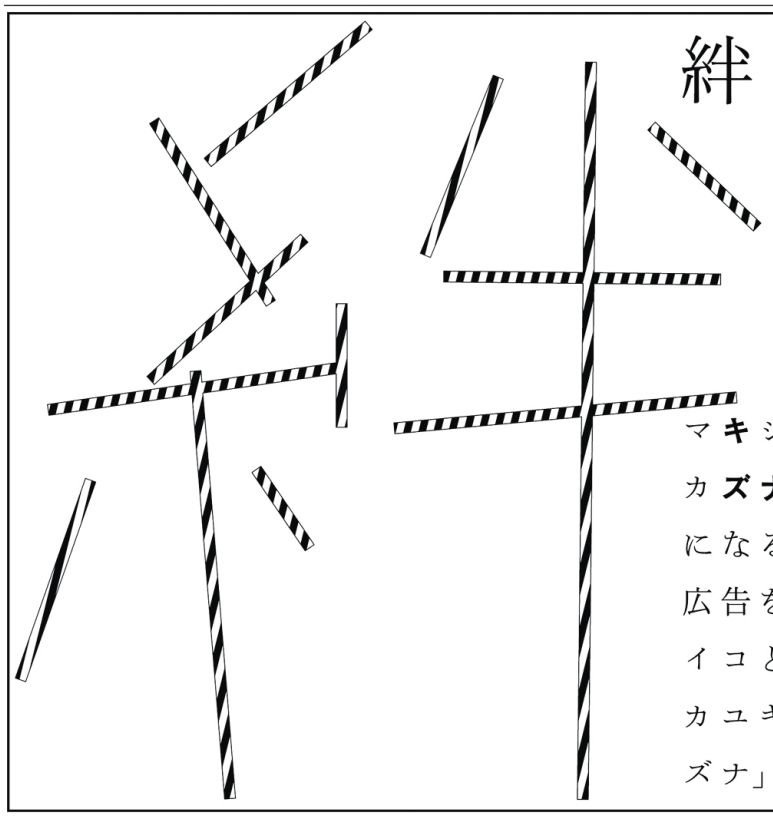
みんなで「エコ」を行えば、きっと地球だって喜ぶ。一つ一つの小さな心がけでわたしたちの地球を助けてあげよう。

（5年・三浦ありさ）

次回（6月9日）は、小野小（東松島市）と岩沼小（岩沼市）です。

新聞作りに参加する小学校を募集しています。申し込みや問い合わせは河北ＮＩＥ推進事務局022（211）1331へ。

絆に気付き。



マキジュンの「キ」とハットリカズナリの「ズナ」で「キズナ」になると気付き、ふたりで募集広告をつくりました。コジマレイコとサトウカシワとソエダタカユキとマエダトモミとの「キズナ」は、審査までに、築きます。

「新聞広告クリエーティブコンテスト」開催！　テーマ「絆（きずな）」

社団法人日本新聞協会広告委員会は、今年も全国の若手クリエーターを対象に（プロ・アマ問いません）、新聞広告クリエーティブコンテストを開催します。人間関係が希薄になりつつある時代、「絆（きずな）」をテーマに、独創的で斬新な、新聞広告の可能性を広げる作品をお寄せください。入賞作品は、日本新聞協会が広告主となり、全国の新聞に掲載されます。

◇応募要項【テーマ】絆（きずな）【サイズ】ブランケット判全15段（天地534mm×幅385mm。ただし、底辺から72mmの部分は完全に空白にしてください）【色】カラーまたはモノクロ【応募方法】作品はA2判の厚紙、パネル、イラストレーションボードにはって提出してください（データでの応募は不可）。応募票を新聞協会ウェブサイト内の新聞広告データアーカイブ（www.pressnet.or.jp/adarc/）からダウンロードし、作品の裏面にはり付けてください【注意事項】○一人何点でも応募できますが、シリーズ作品の応募は受け付けません○未発表のオリジナル作品に限ります○著作権、商標権、肖像権などで第三者の権利を侵害することのないよう十分に配慮してください。第三者が権利を持つ写真、ロゴ、キャラクターなどを利用する場合は、権利者の許可証を添付してください。第三者とトラブルが発生した場合は、応募者自身の責任と費用において解決していただきます○実在する個別企業（個人）名や新聞社名（題字、紙面、広告なども）は使わず、架空のものを作成してください○新聞広告倫理綱領、新聞広告掲載基準にそぐわない作品は審査の対象となりません。新聞協会ウェブサイト（www.pressnet.or.jp）でご確認ください○入賞作品は紙面掲載にあたって補作する場合があります。カラーの入賞作品でもモノクロ掲載となる場合があります○入賞作品は、コンテストの趣旨に沿って、新聞協会ならびに新聞協会会員各社のPR活動に独占的に使用します○入賞作品の著作権は（社）日本新聞協会に帰属します○住所、電話番号、メールアドレス等の個人情報については、選考・発表にかかわる事項以外には使用しません。入賞作品の発表時には、氏名、年齢、所属企業、学校などを公表します。また、受賞者の個人情報は、取材のため新聞協会会員各社に提供しますのであらかじめご了承ください○応募作品は返却しません【審査委員】審査委員長・眞木準氏（コピーライター）／審査委員（50音順）児島令子氏（コピーライター）、佐藤可士和氏（アートディレクター）、副田高行氏（アートディレクター）、服部一成氏（アートディレクター）、前田知巳氏（コピーライター）、新聞協会広告委員長、同副委員長【賞】最優秀賞１点（賞状と副賞50万円）、優秀賞１点（賞状と副賞10万円）、デザイン賞・コピー賞・学生賞（それぞれ賞状と副賞５万円）【表彰】10月20日（火）に開催する「新聞広告の日」記念式典で表彰いたします【発表】10月以降に、新聞協会会員新聞および新聞協会ウェブサイトで発表します【応募期間】**7月14日（火）～28日（火）必着**【応募先】〒100-8543東京都千代田区内幸町2-2-1　日本プレスセンタービル７階　日本新聞協会「新聞広告コンテスト」係　電話03-3591-4407　ファクス03-3591-6149　eメール adcontest@readme-press.com

www.pressnet.or.jp　社団法人 日本新聞協会